

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第15週 2026年4月6日(月)～2026年4月12日(日) 2026年4月16日作成

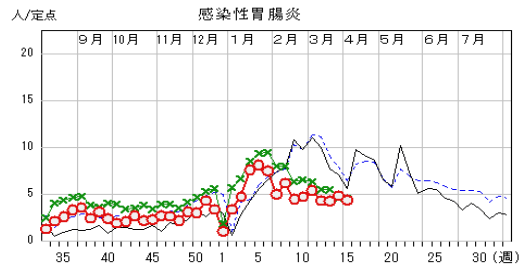
☆定点[※]報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) 感染性胃腸炎

第15週の報告数は136人で、前週より14人少なく、定点当たりの報告数は4.39であった。

年齢別では、1歳(30人)、2歳(17人)、4歳(16人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所(8.50)、県央保健所(7.80)であった。

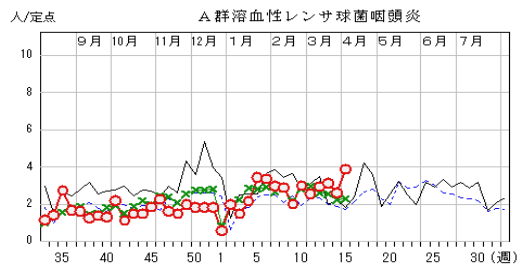


(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第15週の報告数は120人で、前週より39人多く、定点当たりの報告数は3.87であった。

年齢別では、8歳(17人)、3歳(16人)、7歳(14人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(10.75)、県南保健所(7.67)、西彼保健所(5.67)であった。

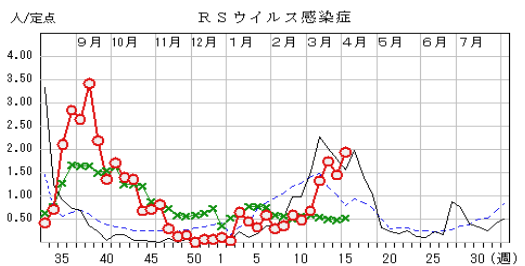


(3) RSウイルス感染症

第15週の報告数は60人で、前週より15人多く、定点当たりの報告数は1.94であった。

年齢別では、1歳(25人)、1歳未満(20人)、2歳(12人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所(9.00)であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第15週の報告数は136人で、定点当たりの報告数は4.39でした。地区別にみると、県北地区(8.50)、県央地区(7.80)は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第15週の報告数は120人で、定点当たりの報告数は3.87でした。地区別では、佐世保地区（10.75）、県南地区（7.67）、西彼地区（5.67）が他の地区より多く、特に佐世保地区は警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【RSウイルス感染症】

第15週の報告数は60人で、定点当たりの報告数は1.94でした。地区別では、県南地区（9.00）が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：国内で麻しんの報告が増加しています

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症すると言われています。感染経路は、空気感染、飛まつ感染、接触感染で、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れ2～3日熱が続いた後、高熱と麻しんが出現します。合併症として、肺炎や中耳炎、脳炎などがあり、死亡することもあります。

長崎県内では、2026年第13週、第16週に各1例の報告がありました。

手洗い・マスクのみで予防はできず、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は確実にワクチンを接種しましょう。また、海外では麻しんの流行が報告されている地域もあるため、海外渡航を計画している方は、ワクチン接種が済んでいるか確認し、ワクチン接種を検討しましょう。

麻しんが疑われる場合には、医療機関に電話等で麻しんの疑いがあることを伝え、指示に従ってください。医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

●厚生労働省 「麻しん」

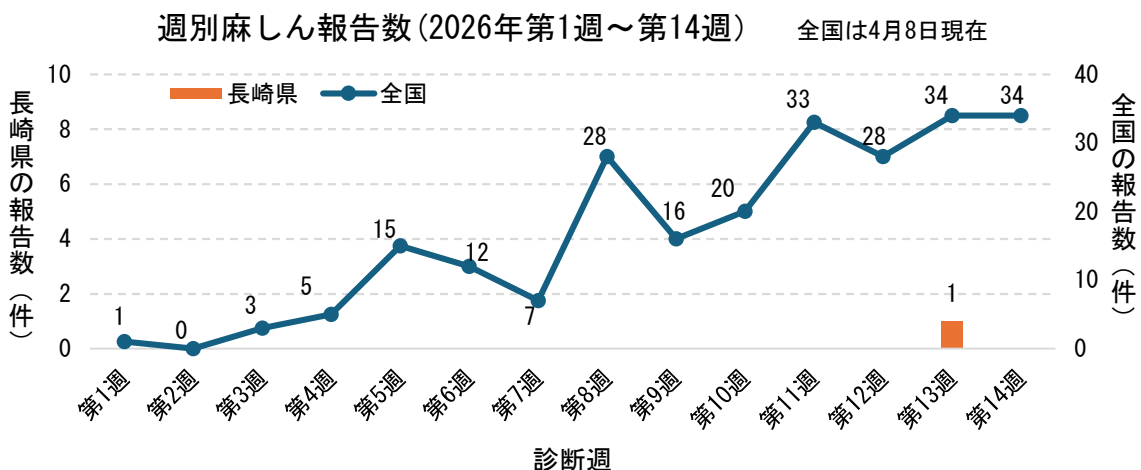
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

●国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「麻しん」

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/measles/index.html>

●国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「麻疹 発生動向調査 速報グラフ 2026年」

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/index.html>



☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、4月に入り、SFTS 1件の報告があがっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

●厚生労働省ホームページ 「ダニ媒介感染症」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

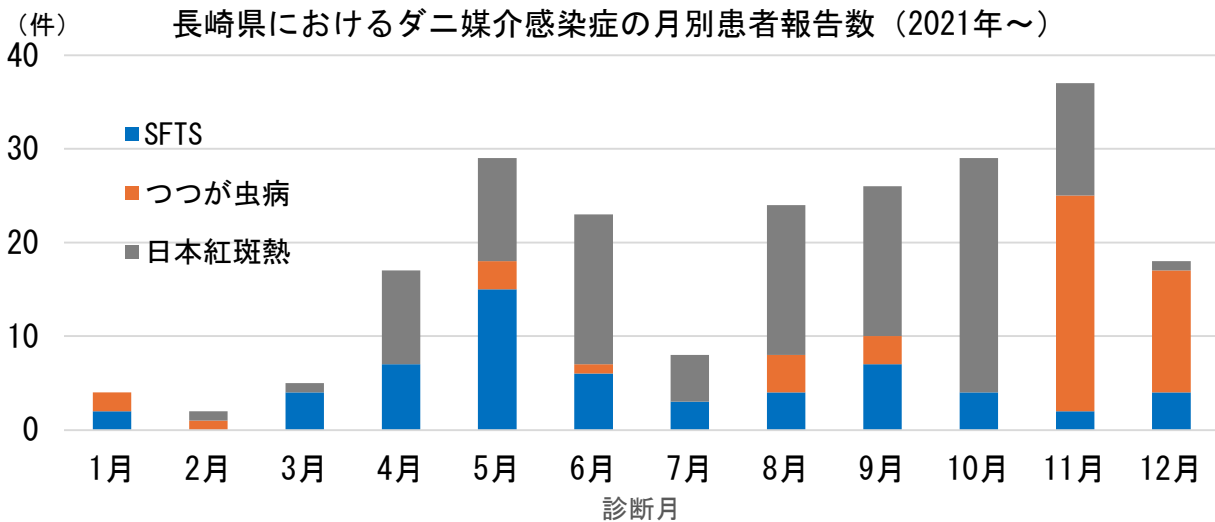
●長崎県地域保健推進課 「ダニ媒介感染症の予防」

<https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-299534.html>

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (1)	13 (3)	13 (0)	13 (3)	12 (2)	1
日本紅斑熱	28 (4)	22 (1)	14 (0)	24 (0)	25 (0)	1
つつが虫病	14 (0)	7 (0)	15 (1)	11 (1)	2 (0)	1

※()は第15週までの発生件数



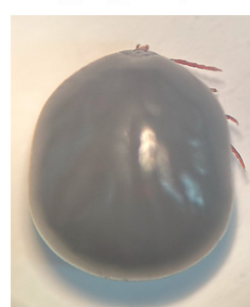
タカサゴキララマダニ



吸血中のマダニ



吸血後のマダニ



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（50代・1名、80代以上・1名）
 無症状病原体保有者 女性（30代・1名）
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）
 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 男性（70代・1名）
 5類感染症：梅毒 無症状病原体保有者 女性（30代・1名）
 百日咳 患者 男性（40代・1名、50代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第10～15週、3/2～4/12)

疾患名	定点当たり患者数					
	10週	11週	12週	13週	14週	15週
	3/2～	3/9～	3/16～	3/23～	3/30～	4/6～
インフルエンザ	16.84	12.18	12.53	7.80	3.49	0.92
新型コロナウイルス感染症	0.43	0.33	0.27	0.39	0.35	0.20
RSウイルス感染症	0.48	0.68	1.32	1.74	1.45	1.94
咽頭結膜熱	0.55	0.35	0.74	0.71	0.58	0.71
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.00	2.55	2.94	3.13	2.61	3.87
感染性胃腸炎	4.74	5.39	4.32	4.29	4.84	4.39
水痘	0.68	0.16	0.39	0.39	0.45	0.35
手足口病	0.26	0.23	0.19	0.03	0.06	0.16
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.35	0.26	0.06	0.06		0.16
突発性発しん	0.45	0.35	0.29	0.10	0.16	0.19
ヘルパンギーナ			0.03			0.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03		0.06	0.03		
急性出血性結膜炎			0.38	0.13		
流行性角結膜炎	0.75	0.75	0.25	1.38	1.13	1.25
細菌性髄膜炎	0.08					
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.08	0.08	0.33	0.17		0.17
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）			0.08			
急性呼吸器感染症（ARI）	71.39	62.16	59.00	60.16	51.08	53.29

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第15週、4/6～4/12) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.92	1.14	0.36	1.67	1.40	1.25	0.60			1.33	2.00
新型コロナウイルス感染症	0.20		0.45	0.33	0.40	0.13				0.33	
RSウイルス感染症	1.94	0.75	2.17		1.00	2.80	9.00				
咽頭結膜熱	0.71	0.50	0.17		0.67	0.40	0.67	6.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.87	10.75	1.83	1.00	5.67	3.00	7.67	3.50		0.50	0.50
感染性胃腸炎	4.39	6.75	3.50	3.00	6.67	7.80	0.33	8.50	2.50		
水痘	0.35		0.17	1.00		1.00			0.50		1.00
手足口病	0.16		0.33		1.00						
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.16	1.00						0.50			
突発性発しん	0.19	0.25	0.33			0.40	0.33				
ヘルパンギーナ	0.06		0.17				0.33				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.25	1.00	0.33		8.00						
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.17	1.00	0.33								
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	53.29	57.71	98.73	16.00	68.60	55.88	28.20	23.00	13.67	16.00	30.33